



G class

総合表現

「君の心を開いて
～『きりかぶ』より～」

指導担当 恒賀 康太郎

G class

1 テーマ

『君の心を開いて～「きりかぶ」より～』

2 内容

造形表現を中心とした総合表現を通じて、絵本「きりかぶ」をもとにしたオリジナルストーリーを伝える。

3 テーマについて

(1) 「きりかぶ」とは

「きりかぶ」は、代表作「そらまめくん」シリーズや、「くれよんのくろくん」シリーズで著名な、なかやみわさんがつくった絵本「きりかぶ」を底本としてつくった脚本の作品です。今年の台風で倒された九州大谷短期大学の記念樹ピンオークが、切り株となった事を題材に、現実の世界から絵本の世界に導くという流れで物語が始まります。そして、主人公となるきりかぶが、青々とした葉や太く立派な幹を失ったことで自信をなくした様子が、たくさんの動物たちとの出会いから少しずつ自信をもつというストーリーになっています。

物語を通じて、どんな姿になっても、「自分はここにいていい。そのままで必要な存在なのだ」というメッセージを伝えています。今回は、切り株が森の中の目印となり、そこに様々な遊びが生まれる様子や少しずつ自信を回復していく様子を造形物の色の変化で表現していきます。

(2) 造形技法について

今回は、複数の造形活動を盛り込むことで物語を彩ろうという計画を立てました。とくに舞台を利用する観点から、昨年の取り組みを活用しつつ現代アートの考え方も取り入れることで、鑑賞者が参加し驚きと興味を引き付けるように考えました。

① ライブペインティング

絵を描く過程を見せるパフォーマンスアート。

通常アナログ画材でイラストボード/壁などにペイントする事を指す言葉。絵そのものの完成度・技術もさることながら、即興性が重視されるため、絵が出来あがる過程をいかに魅せるかという要素も重要となっている。空間の使い方、アーティストの動きなどもライブペイントの面白さの要素でもある。今回は、倒れてしまったピンオークの木の葉を参考に、音楽に合わせてピンオークを描いていきます。

② 張り子

張り子とは、竹や木などで組んだ枠、または粘土で作った型に紙などを張りつけ、成形する造形技法のひとつ。中空になっており、外観と比較して軽いものが大半を占める。「はりぼて」ともいわれる技法です。張り子の技術は2世紀に中国に始まり、アジアやヨーロッパに伝わったといわれています。日本には平安時代頃には中国から伝来しており、産室に犬筥（いぬばこ）が飾られたことが知ら

れています。日本全土に分布し、郷土玩具などに用いられている。今回は、園芸用の曲がるプラスチック素材とエアコンの室外機の排水パイプを活用して、ドーム型の形をつくり、雪で作るかまくらを表現しました。

③ 紙工作

造形活動でもお馴染みの紙工作。今回は、ヤシの木の葉や切り株の周りに咲く花を作っていました。

④ 竹細工

夏に流しそうめん用に収穫しとっておいた竹を細く割り、バーナーで熱を加えることで少しずつ曲げていくことで円を作りました。いったん曲がった竹は元に戻らずにしっかりとした曲線ができるので、折れずに軽くて丈夫な骨組みになります。今回は、幹を形作る枠として使いました。

⑤ 染色

染色は、布などを染めることを意味しています。今回は、海の様子を表す際に青い布を必要としました。染色をすることで多様な色の布を作り出し、舞台上で活用することができました。

⑥ インスタレーション

造形技法ではないですが、ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させるアートの手法を活用しました。特に、象徴的なピンオークの木や夏を象徴するヤシの木など、木そのものの作品としてではなく、舞台全体の空間を構成する一部となることを意識しました。

(3) さまざまな表現活動

① 身体表現

身体表現を即興的なものとして利用しました。今回は亀の動きをそのゆっくりな様子として音楽と一緒に表現していました。

② 音楽表現

今回は、場面の様子に合わせたバックミュージック、合唱の伴奏としてピアノ演奏をしました。特に、絵や動作など、音楽に合わせていくようにすることで、「きりかぶ」という作品の雰囲気を作り出したり、見る側に「もの」が与える印象以上の効果を期待出来たりしました。

③ 言葉表現

今回は、ナレーションを入れるようにしました。物語全体をナビゲートしつつ、場面に応じた表現していました。

4 内容について

(1) 作品の構成

○ オープニング：タイトルコールや象徴となるピンオークの木が登場する。絵本の世界に入ってもらえるよう、タイトルコールの際に舞台中央に天井に届くような大きな造形物（ピンオーク）が登場するようにしている。また、どんな葉をつけているのかを、ライブペインティングで表現していくことで、物語に導くようにしている。

- ねずみが切り株に出会う場面：森の中で見つけた「きりかぶ」に、遊びを持ち掛ける。対話しているかのような間をセリフの間に入れながら、ストーリーが進行していく。ここでは、縄跳びをつかった「ゆうびんやさん」「8の字」といった、子ども達のための運動遊びを楽しみながら展開していく。
- フクロウが切り株に出会う場面：ここでは、地図を片手にどこに行こうか迷っているフクロウが切り株で一休みしながら、北に行ったらどうなのか、南に行ったらどうなのかを想像し、想像の世界で楽しむことで次の目的地を考えるという場面になる。以下は、北の場合と南の場合について記述する。
 - ・北の場面：雪だるまを作ったり、雪合戦をしながら童謡「ゆき」を歌ったりする。この中で、会場にいるみんなを巻き込んで、雪に見立てた風船や大きな白い袋で送ったりしながら遊びを楽しむ。
 - ・南の場面：背景に海をイメージした不織布がはためく前で、ヤシの木に囲まれた前でお猿さんが楽しむ様子を表現する場面。ヤシの木は、ピンオークで使用した麻布をストロー状にして引き延ばすことで表現した。南の島や温かさを表現するため、ヤシの実やそれを取って楽しむお猿さんたちで表している。童謡「あいあい」を歌いながら、想像の世界でフクロウも一緒に楽しむ。
- ネズミのおばあさんが切り株に出会う場面：ネズミのおばあさんが切り株にであい、切り株も大切な存在であることを気づかせる場面。子ども達がパーティーをする目印にすることを思いつき、花飾りを子ども達にお願いし作ってもらう。
- エンディング：きりかぶの傷ついた心が癒され、自分自身の価値に気づいていく様子をスピッツの「優しいあの子」を合唱することで。

5 制作経過

(1) 課題

①3つの視点での素材研究

- ・予算以内に収めるための安い素材
- ・表現物が表現者の思いを伝えやすい素材
- ・舞台での見せ方を解決するための素材・加工

【ピンオーク】

昨年の作成したアイデアを活用して、倒れる前の大きなピンオークをイメージして麻布で天井付近までのびる大きな幹を作成した。昨年と同様に、柔軟性もあり耐久性にも優れている竹をあぶって輪を作った。その後、麻素材をしていきつなぎ合わせることで、円柱状の木の本体部分が完成した。つなぎ合わせには、後期に行ったお化け屋敷で使用した結束バンドを活用した。



図 1 ピンオーク

【ヤシの木】

同様の木ではあるが、ヤシの木としてピンオークとの質感の違いや木の形状の違いをどう出せるかが大きな課題となっていた。様々な素材を試した結果、トイレットペーパーの芯を持ち上げると螺旋状に引き延ばせ、また紙通しが摩擦によってほどけない性質が麻布でも再現できないかというアイデア思いついた。

結果、写真のようにロール状の麻布を中心から引き抜こうとすることで、まっすぐで



図 2 染める様子

【切り株】

当初からピンオークの木を活用するアイデアはあったが、実際にどのように主役である切り株にするかについては十分に考えていなかった。実際に、短いものを準備するのか、それともピンオークをバトンから降ろした後、上部を外すなどのアイデアがあった。実際舞台上のバトンを下ろしてみると、麻布が重なってあたかも古くなった木の肌のようになったため、操作や進行上スムーズに場面を切り替えていくためにも、バトンを下ろし短い状態で止めるための椅子の中に入れるなどして切り株を作成することとした。図3-4はその様子である。



図3 切り株内部 図2 切り株

【ライブペインティングの画板】

ライブペインティングの際に使用する画板に関しては、油絵の具のキャンパスのようなイメージを考えた。条件としては模造紙に描くことだけを決めて、どう支持体にしていくかが課題として残っていた。例年段ボールをガムテープで重ねて支持体を作成したが、重いうえに壊れやすい性質がネックになっていた。通常であれば、重ねて丈夫にする必要があるがその一方でどんどん重くなってしまふ。段ボールを軽くすることと壊れにくくすることが相反することだったため、課題の解決は難しいように思えた。

その後、油絵のキャンパスが、木の骨組みに布を張り付けるようになっている構造であったことを利用して作成する方法に切り替えることとした。また、紙の段ボールではなくプラスチックの段ボールを利用することで一定の丈夫さと軽さが得られることが分かり、その補強のとして木の骨組みとすることとした。実際に、プラスチック段ボールには両面テープで模造紙を張り、プラスチック段ボールを曲げないようにするための通常は十字の骨組みを斜めに交差させることで



図 3 キャンパスの発想を利用して作成した骨組み



図 6 実際のライブペインティングの様子

全体を固定することに成功した。

(2) 本番前日

本番前日のリハーサルでは、課題を受けた作り直しや補強、動きの確認などの改善が図られた。特に切り株は、舞台上に平行な切り口が、舞台から一段低い鑑賞者から見えないといった課題があったため、斜めにするためのエル字型の支柱を試すこととした。

6 表現発表

(1) 発表（舞台進行）

① オープニング

- ・ナレーションの「切り株」の合図で、全員が「切り株」ということでナレーションと中央のピンオークの木に照明が当たって話が始まる。
- ・最初はナレーションだけで物語が動く。

② ライブペインティングの場面

- ・ナレーションをきっかけに舞台下手から画板と絵の具、そして福山さんが登場し、ライブペインティングが始まる。
- ・ライブペインティング中は、バーナムよりを「なわとび」ピアノで弾く。
- ・完成後、作品を縦にして見せ、ナレーションが終わると舞台袖に移動する。

③ 亀の場面

- ・舞台上に切り株が出てくると同時に、椅子が準備されて遊ぶ場ができる。
- ・亀が身体表現をしながら登場する。
- ・舞台上で、椅子取りゲームを即興で行う。おおよそのセリフはあるが、あくまでも即興で行う事で舞台上の楽しさを表現する。
- ・ピアノも当日即興でリズムを変化させることで、予定不調和な動きを生み出すようにする。

④ ねずみの場面

- ・二匹のネズミが登場することで、場面が切り替わる。
- ・二匹がたくさんネズミを呼び出すことで、楽しい運動遊びが展開される。
- ・最初に6人で「ゆうびん屋さん」その後全員で「8の字」を「ノネズミ」の歌にのせて楽しむ。

⑤ ふくろう登場：北と南の場面

- ・フクロウの旅をきっかけに、北の想像や南の想像で空想する。
- ・北の想像では、雪だるまやかまくら、大きな風船を雪だるまに見立てて、見立て遊びを行う。※鑑賞者参加型の遊びの展開
- ・南の想像では、設置した麻布がバトンの上昇で伸びていくようにヤシの木が登場する。
- ・「おさるさん」を歌って、ヤシの実で遊ぶ。※リズムダンス

⑥ おばあちゃんネズミの登場とエンディングの流れ

- ・おばあちゃんねずみが登場し、エンディングのきっかけとしている。

・おばあちゃんねずみと切り株のつながりから、切り株がそのままでいい存在なのだというメッセージを受け取る。

・たくさんのこどもネズミが集まって、切り株が飾られていく。

⑦ 歌「優しい子」スピッツよりの合唱

・一人の独唱をきっかけにみんなが登場してくる。

・ストーリーの切り株が勇気をもらっていく過程や現実の短大生活と重ね合わせて、少しずつみんなが勇気をもらって自分らしくあることのよさを表現する。

7 感想

感想

(1) 1年生

猿渡愛華

遊びと表現発表会を通してたくさんのことを学びました。練習の時に、何をしたらいいか、どのように行動していいのかわかりませんでした。舞台上で発表する時もセリフを間違えたらどうしよう、先輩の迷惑にならないようにと不安でした。ですが、本番の日になるにつれて先輩の動きを見て行動したり、セリフを言う時やみんなで合わせる時はアドバイスを受け、こんな風に言ったらいいのだと学びました。来年は自分達で考える事になるのでゆき先輩がどのように動いていたかを思い出していい作品を作れるように頑張りたいと思いました。

青木真郁

本番ぎりぎりまで細かい変更やトラブルが起きたけど、一人一人が責任感を持って自分が任された役や道具の移動を最後までやり遂げていたと思います。2年生は、劇の内容を大まかに決めて中身を細かく考え、一年生へ分かりやすく教えてくださいました。切り株の存在が薄くならないよう動物たちがどう動けばいいのか考えてあり、バランスの良い演出になっていたと思います。掛け声や歌も最初に比べると、みんな堂々と歌っていたように感じます。私も楽しみながら劇に参加することができました。ゼロから作り上げるのはとても大変なことですが、本番は成功して本当に良かったです。お疲れさまでした。

古賀葉月

遊びと表現発表会では子どもたちにどう見せたら見やすいのかや言葉をどう伝えたら伝わりやすいのかなど学ぶことができました。Gクラスはものづくりが主であり、手伝い程度した出来なかったけど、先輩たちの作っているものを見て工夫がたくさんされているなと思いました。あるものを違うもので表現するためにアイデアも大切だと感じました。本番でのアドリブやアクシデントにすぐに対応していくことも大切だと思いました。ものを一から作り劇にして表現し子どもたちに伝えるというとてもいい機会になりました。

植村結奈

遊びと表現発表会を終えてまず凄いなと思いました。表情や言葉一つでその場の状況や

雰囲気ガラッと変わって表現って凄いなと思いました。また、表情や言葉だけでなく動作の違いで仲が良さそうだなとか楽しそうだななど、感じ取ることができるのだと学び、動きの大きさの違いでも状況や雰囲気の変化が伝わりやすいということが分かりました。大変だった、難しかったと思うことは気持ちの動きです。置く位置や向きが少しでも違えばバラバラに見えてしまって統一感や何を見せたいのかが伝わりにくくなってしまおうということを知り、その微調整が難しかったです。一つひとつの動きに意味があるだと考えさせられました。

先輩達の動きからたくさんを学び、その学んだことを次に活かしていきたいと思いました。たくさんのご迷惑をおかけしてすみませんでした。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

友清カレン

遊びと表現発表会を終えて、たくさんを学びました。そして、先輩方には本当に感謝しています。遊びと表現発表会の準備期間は、大変なことや辛いこともあったと思います。ゆき先輩は一番のリーダーで、劇が上手くいかず辛い時でも、Gクラスみんなに分かりやすい指示をしてくださいました。前日のリハーサルでは、最後まで通すことができず不安を抱いたまま当日になってしまいました。しかし発表会本番は、ピンオークの木の上げ下げも上手くいき、Gクラスみんな一緒になって成功させることができました。来年は、今年の先輩方の動きや全体の動きを参考にしながら頑張りたいと思います。

伊崎 大雅

僕は今回の遊びと表現発表会を経験して友達や先輩方と距離が縮んだと思っています。幕間での手遊びを友達と一緒に練習したり、先輩方に縄跳びを回す手伝いをしてもらう事もあり、関わりが増えたことからそう思いました。また、ゆき先輩がリーダーとなってクラスを引っ張る姿、作業や準備で動く先輩方を見て、1年の僕も頑張らなければと思いました。先輩方の意思を来年の1年に伝えるため、継いでいきたいと思っています。お疲れ様でした！

野元厚志

今回二年生と一緒に、初めての遊びと表現発表会をやってみて、練習する最初らへんから、作品作りが進められていて、僕達が二年生になった時はこういう風に早い段階からやっていると間に合わないんだなと思いました。また二年生は演技力があって、保育者の顔が見れた気がします！Gクラスが披露する内容が本格的と感じ、僕は一年生の人達もそうなんですけど、二年生に足を引っ張ることがないように行動することを考えて練習に参加していました。練習する度に、Gクラスがだんだん一つの輪に完成へと近づいていたんじゃないかなと思いました。本番では程よい緊張感がありつつも、他のクラスの披露が、楽しみな気持ちがあったおかげか、リラックスした気分で舞台上でみんなと一緒に披露することが出来て、とてもいい思い出になりました！大谷の伝統を受け継いでいけるよう次の遊びと表現発表会、新一年生と頑張っていきたいと思いました。二年生の皆さん、本当にありがとうございました。

芳賀奈月

遊びと表現の発表会を体験して思ったことは、自分達のクラスでは役作りから頑張った。亀役では、歩き方の表現が難しかった。亀は歩くのが遅いので、遅く歩いているが途中から早くなってしまう部分もあった。友達同士で歩き方を確認し合ったり、練習をして歩き方を合わせた。台詞の声や歌も最初は小さかったが、何回も練習することにより少しずつ大きい声で台詞を言ったり、歌を歌うことができたと思う。

本番では動きなどを失敗する部分や声が出せなかった部分もあったが、練習した分の成果を出せたのではないかと思う。

練習から構成まで2年生を見てきて、来年自分達ができるのだろうかと不安も出てきた。だが、将来保育者になると自分達で子供が行う活動、ねらいを考えなければならないのでいい経験にもなると思った。

大浦佐知

遊びと表現発表会を通して、道具を自分たちで作ったり、ストーリーを考えたりして1つの舞台を作り上げていくことの難しさを知りました。

夏休みぐらいから発表会の内容を考え、1年生2年生の役割を作っていたことを聞き、そんなに早くから準備していたんだと驚きました。リハーサルでいざ舞台に立つと、道具が壊れたり、照明さんとの連携が上手く取れなかったりして、先輩方はすごく苦労されていました。でも、みんなで協力し助け合いながら本番では、すごくいいものができたと思います。会場にいる人達にどうやって伝わるのか、どうやって舞台の中に入り込んでもらえるのか、よく考えながら作っていかないといけないと思いました。

来年は自分たちで作りにくいかなければなりません。先輩方のように素晴らしいものを作り上げることができるのだろうか不安になることもあります。今回の遊びと表現発表会で学んだことをいかして来年に繋げていきたいです。

松永伊織

今回の遊びと表現発表会では普段先輩たちと一緒にいるところが少ないし、劇に出るものなかなかないので貴重な体験でした。最初は何をしたらいいかわからず、途中で自分の役が増えたりなどしましたがなんとか自分の中ではうまくできたと思います。本番では長縄の回し方を間違えてしまったのですが先輩たちのアドリブのおかげでいい感じになっていました。準備もすごく大変で遅くまで残って準備をしたりして帰るのも遅くなったりしましたが劇が終わった後の達成感は凄かったです。

来年は自分たちが作っていくので、今年の先輩たちの動きや発想を参考にして来年に繋げていきます。

津留亜輝斗

僕は今回の遊びと表現で裏方の役割で、セリフなどはなかったのですが、物の設置場所やタイミングを覚えるだけでも大変だったのに、設置と舞台の役を演じている先輩方を見

とても凄いなと思い尊敬しました。

きりかぶという題名を最初聞いた時そういう物語があるのだと思いました、練習の際に食堂の横にあった木のことについてのオリジナルの物語だと知りとても驚きました。そして、気持ちを最初見た時に舞台側から見てみるとあまりどうゆうふうになっているのかよくわからなかったのですが、雪のシーンで誘導係だったので舞台を観客席から見る事ができたので舞台を見てみると感情が伝わりづらいきりかぶの表情などが気持ちのお陰でみんなにきりかぶの感情などが伝わりやすくなっていたのですごいと感じました。今回の遊びと表現発表会を通して先輩達との距離が近づいたような気がしたので良かったです。

藤瀬樹里

感情を表に出すことがあまりない方なので、今回、表現することが難しかったです。なかなか顔が緩まず、本番前までとても緊張していました。自分のやる役割が飛んでしまいそうで、不安いっぱいの中本番を迎えましたが、やり遂げることができたと思っています。最後まで役になりきれていたか不安で仕方ないですが、自分なりに自分の役をまっとうすることができたと思っています。今度は私達が中心となってするものになるので、今まで見てきた先輩方の姿を見習って、一丸となって、協力し合って頑張りたいと思いました。

塩崎恭大

遊びと表現発表会はとても良い経験になりました。来年自分が主体となると考えるととても先が思いやられる。先輩たちの作業の取り組む姿勢や演技に心打たれた。一人一人が一生懸命にしている

川上莉奈

昨日はお疲れ様でした。

最初ヤシの木は台詞もないし簡単かなと思っていたけれど繰り返し練習をしていると南の場面に大事な役割をしていると実感しました。

2年生にとって遊びと表現発表会は大切な行事で先輩方一人一人の熱を感じました。

本番は緊張したけれど楽しくできました。先輩方の指導を来年に繋げていきたいと思いません。ありがとうございました！

菊池七海

今日本番だったこともあり、とても緊張しました。でも、練習の成果を出すことが出来たので良かったと思いました。私は、ピアノを弾いてとても緊張しました。早くならないように意識をしながら弾きました。落ち着いて弾くことが出来たので、良かったです。最初の練習の時は、全然弾けなくて練習をしていくうちに、弾けるようになったので良かったなと思いました。ピアノは大変だったけどここで弾くことで自分のためになると思いました。沢山の人が見ている中で弾くことで、自分が保育士になった時に役に立つと思いました。この経験を大切にしたいと思います。

練習の時から先輩たちの様子などを見て大変だなと思いました。来年は、私達がするの

で先輩たちの様子や大変だったことを思い出しながら作り上げたいと思いました。

木下綾菜

遊びと表現発表会を通して、道具の準備が大変だと思いました。また、発表が終わるまで役になりきることが大切だと思いました。

たくさんの道具を使つての発表だったので、計画的に道具を作らなといけないと思いました。計画的に作らないと間に合わないし、練習する時間もどんどんなくなると思いました。

自分の番やセリフが終わったら終わりではなく、発表が終わるまで緊張感を持って、最後まで自分の役になりきらないといけないと感じました。また、ステージ上では大きな動きをすることが大切だと感じました。

本番でヤシの木が上がるかとても心配でした。でも、ヤシの木が上がると見ている人が歓声をあげたから、上手く上がって嬉しかったです。見ている人も参加できたり、ワクワクする仕掛けがあったりするとより楽しんで見ることができると思いました。

来年は私たち1年生の番なので、先輩方の動きを思い出してやろうと思います。Gクラスは人数が多いので、みんなで協力して頑張ろうと思います。

黒木彩花

練習したい時では、気持ちの変化を表す四角錐を動かす位置や向きを少しずつ変える所が大変でした。観客席から見える位置で、気持ちを表す変化が変わっていくため向きをどのように向ければ良いのか悩まされました。出番の時に、普通に変化を変えに行くのではなく楽しそうに変化を変えることによりその場の雰囲気も良くなってくると分かりました。練習も何度もすることで、より良いストーリーになって行くことが改めて分かりました。今回を活かして、来年の遊びと表現発表会もより良い物に仲間と一緒に作りあげ、少しずつ学んで行きたいと思ひます。

松木穂乃花

今回の遊びと表現発表会で先輩方とひとつの作品を作り上げられてよかったです。来年は私たちが次の1年生をリードしてひとつの作品を作り上げたいとおもひます。

(2) 2年生

福山里穂

遊びと表現の内容が決まってから本番までとても短く感じた。苦勞すること、思ひ悩むことの方が多くあった。互いにアイデアを出し合うものの、予算の関係であったり、どのように物を造り表現していくかという問題。日を追うごとに出てくる焦りや不安。考へていること、思つたことを他の人に言葉で伝える難しさ。Gクラスの作品ができるまで多くの壁があり、人間関係に悩みながら企画者を中心に作りあげてきた。今回の遊びと表現は1人では出来ないことばかりだった。1人じゃないからこそ互いの意見を聞いたり、時には妥協することも必要だった。今までぶつかり合つてきた分、良い作品ができたのではないかと思ひ。

三小田彩花

今回の遊びと表現発表会を通して、去年よりも学ぶものがとても多かった気がしました。遊びと表現発表会が成功したのは、リーダーやその他のサポートがあっただけで、去年の先輩方の動きをしっかりと見ていたからこそ、今年に生かせることができてたと思います。そして、1年生と2年生が団結して、準備や練習を出来たことがとても良かったと思います。色々なアドバイスを下さった先生方にも感謝したいです。来年は、今の1年生に、今年の発表会を参考に頑張ってもらいたいです。

江頭芹奈

遊びと表現を通して、沢山の経験ができました。

最初はめんどくさいなと思っていましたが、だんだんとみんなのものづくりをしたり、完成へ進んでいくうちに、楽しみながら出来ることができました。

1年生の時は、2年生についていけなかったけど、今回は自分たちで主につくっていくことがとても大変だったかなと実感しました。去年の先輩達も大変だったんだなとも改めて思いました。

今回の遊びと表現をやってみて、1年生のお手本になれてたら良いなととても強く思います。

河口凌

2年生になっての遊びと表現発表会は、1年の頃よりも責任感が伴う行事となった。一年前は先輩たちの指示に従い、彼らの足を引っ張らないように一所懸命取り組んでいたが、今回は1年生が理解できるように伝えながら、全てを1から作らなければならない。去年、先輩達はこんなに辛い思いをして劇を作りあげんだと感心した。劇の流れだけではなく、セットの制作から使うタイミング、位置も考えなければならない。大変な作業に辛くなったこともあったが、友達と話し合いながら夜遅くまで作業に取り組むあの時間はいい思い出となった。決まっていた台本が急遽変更になったり、本番直前まで安定はしていなかったが、本番の劇は成功とっていいだろう。

樋口亜美

私はこの遊びと表現を通して、Gクラスの絆が深まり協力して作り上げることのできた作品だったなと感じた。

遊びと表現は2年目になり、作品作りにも熱が入り最後の大会だから、より良いものにしたいという気持ちが強かった。最初はどうしたら良いのかわからず、ぼーっとして指示されたら動くという感じになってしまったが、日にちが近づいてくるにつれ、自分から行動することができたのではないかなと思う。遊びと表現委員を中心とし、一つずつ作品に必要な材料ができ、台本も有希が考えて作ってくれて、ほんとに感謝しかないなと思った。遊びと表現で、Gクラスの1人として出られたことが何より嬉しかったし、後悔なく終わることができたからほんとによかったなと思う。

2年間遊びと表現をやってきて、1年間の間でこんなにも成長することができ責任を感

じながらするイベントというのは大切だと感じた。
この遊びと表現で学んだことを生かしこれから頑張っていきたい。

国武志帆

私は、今回の遊びと表現発表会で様々な事を学びました。まず、発表会本番に向けて練習を重ねていくうちに、皆で協力しなければ劇を作り上げていくことができないと改めて思いました。また、講堂でのリハーサルを行うと、照明や舞台演出の方の協力も必要だと実感しました。発表会本番では他のクラスの発表を見て、それぞれのクラスの個性が出ていたので、見ていて面白かったです。この発表会で学んだ事を、将来活かしていけるような保育を行いたいと思いました。

諸藤朱音

今回の遊びと表現発表会での感想は、まず、とても懐かしい気持ちになりました。高校三年生の時に見た憧れのステージ、去年の一年生の時の何も考えずにただ二年生の指示に従って動いていたステージとは違い、自分が二年生になってのステージは、一年生の時とは違い、きちんと何を伝えたい劇をするのかを理解し、同じクラスの人々の役や、ナレーションをしてくれている人への応援の気持ちなどを持って出来たので、とても感動することができました。

また、今回の色々なクラスを見て学んだ感性を大事に今後活かしていきたいと思います。

横江咲輝

作るころから2年生が中心になってやってみて、とても大変なことばかりでした。でも、リーダーを中心に頑張ったおかげで、とても良い劇になりました。本番では、練習の時よりも良かったと思います。たくさん練習して、1つの劇を作ることができてとても良かったです。いい思い出に残りよかったです。来年の一年生にも頑張ってもらいたいです。

大久保愛美

遊びと表現を通して、沢山の経験ができました。

最初はめんどくさいなと思っていたけど、だんだんとみんなとのづくりをしたり、完成へ進んでいくうちに、楽しみながら出来ることができました。

1年生の時は、2年生についていだけだったけど、今回は自分たちで主につくっていくことがとても大変だったかなと実感しました。去年の先輩達も大変だったんだなと改めて思いました。

今回の遊びと表現をやってみて、1年生のお手本になれてたら良いなととても強く思います。

森川有希

この遊びと表現発表会を通して私は仲間の大切さと中心になる大変さを学びました。去年の自分はとても力になることはできず2年生の姿を見ているだけでした。けれど、今年

になり自分がクラスをまとめていく立場になり、沢山悩んだりきつい思いもしました。まとめていくことがここまで大変だと知りませんでした。造形クラスなので造形を通しての作品作りを目指しました。担任の恒賀先生と毎日の打ち合わせを通し、造形物を作り上げました。子どもたちにどんな事を伝えたいのかや、楽しくするには何をしたらいいのかなど悩みました。「きりかぶ」という絵本を題材にし、人を思いやる気持ちや、一人ではないんだという事を伝える良い経験ができました。一人ひとり持つ物は違って、良い所もあれば悪い所もあること、けれどみんなで協力ができる事の大切さを学びました。このクラスで良かったと思えることができましたし、作り上げることができてよかったです。

今後の遊びと表現発表会をする1年生にとって手本になれていたらなと思いました。

古賀 未来

私は遊びと表現発表会を通して、チームで動くことの大変さや大切さを学ぶことが出来ました。初めに皆で役を決めたりグループに分かれてどの様な内容にするかを話し合いました。そして、買い出しをしたり実際に道具を作り初めました。

実際に道具を作ると上手い出来ないことも多くありました。その度に話し合いをし何を使ったら上手いのか、どうしたら成功するか皆で色々考えていくことが出来ました。私はこの事から、1人では出来ないことも仲間がいることで沢山の考えが浮かびいい作品に近づけていくことができたと思いました。

私は、誰か1人だけが頑張っても作品は出来ず、皆で協力しないといい作品は出来ないとしました。この遊びと表現発表会を通して学んだことは大切にしていきたいです。そして、保育者として現場に立った時に学んだことを活かしながら役立てていきたいと思いません。

南柚希

私は遊びと表現を通して様々なことを学びました。

最初、間に合うか間に合わないかギリギリのところから始まって、どうなるかと思ったこともあったけれど、最後はみんな協力してやりきったと思います。制作物も多くて、去年は先輩方がほとんどしてくれていたため、今回は私たちが実際するとなると大変でした。けれど、リーダーをしてくれたゆきがみんなに指示してくれたり人一倍頑張ってくれたおかげで、この作品の完成があると思います。2年生最後の行事だったので、とても印象に残りました。

西原杏奈

今回の遊びと表現を終えて、造形表現としての物作りでは、自分では考えつかないようなアイデアや制作方法を知ることができ、楽しく制作を行うことができました。また、表現方法では個人個人が役を大切に服装や小物を使ったり、場面にあった音楽を使って表現をすることができ、子どもたちにも伝わったのではないかと思います。本番が近づくにつれて、表現が変わっていくこともありましたが、何回も全員で通しの練習を行うことができたため、変更点もどんどんクリアしていくことができたように感じました。本番

も心配なことや緊張もありましたが、最後までやりきる事ができて良かったです。今回の造形表現でのアイデアなどを今後の保育活動に活かしていけたらいいなと思いました。

山口蒔乃

私は、今回の遊びと表現発表会を通して造形表現のおもしろさや楽しさを感じました。特に、大きな造形物が釣り上げられてひとつの大きな木になっていく所は凄くワクワクした気持ちになって、造形表現にはワクワクやドキドキが沢山詰まっているのだと実感しました。1年生と一緒に、みんなで作り上げた遊びと表現発表会。大変なことや難しいこともありましたが、それと同じくらい楽しいことやほっとする雰囲気がありました。終わったあとにはとても達成感を感じる事が出来て嬉しかったです。

末松美咲

私はこの遊びと表現の発表会で多くのことを学びました。戸惑いと授業との両立で動くことが出来なくなったり、行き詰まり、「辛い」と思ってしまった日もありました。しかし実際に日付が近づき、講堂のステージに立ったり、リハーサルをするにつれて「このクラスで完成させたい」という意思が生まれ、この発表を迎えやり遂げることが出来ました。

二年生になって、このクラスでこの舞台に立ててやり遂げられたことをとても誇りに思っています

学会委員:2年 森川有希、南柚希、江頭芹奈

1年 上村結奈、菊池七海、松本穂乃花

担当

ナレーション:国武志保

ピアノ:福山里穂、江頭芹奈、菊池七海

ピンオークの木:福山里穂

カメラ役:1年 大浦佐知、古賀葉月、芳賀奈月、猿渡愛華、青木真郁、友清カレン

ねずみ役:2年 河口凌、森川有希、南柚希、樋口亜美、大久保愛美、横江咲希、三小田彩花、諸藤朱音

1年 伊崎大雅、松永伊織

フクロウ役:2年 山口蒔乃

北の場面の作成及び構成:2年 西原杏奈、三小田彩花、末松美咲、諸藤朱音、古賀未来

1年 津留亜輝斗、野元厚志

南の場面の作成及び構成:2年 河口凌、森川有希、南柚希、大久保愛美、横江咲輝

1年 大浦佐知、木下綾菜、川上莉奈

ねずみのおばあさん役:2年 樋口亜美

舞台裏:1年 藤瀬樹里、梅村結奈、松木穂乃花、塩崎恭大

参考文献

秋山 光和, 世界美術辞典, 新潮社, 1985年